

第56回 システム自然科学研究科セミナー

演題 「DNAバーコーディングの概要と国内外の現状」

講師：伊藤元己・神保宇嗣（東大院・総合文化・広域システム）

日時：3月24日（水）15時～

場所：4号館 3階 大講義室

DNAバーコーディングはHebert et al., (2003) によって提唱されたDNAの短い領域（DNAバーコード）を種の表徴として同定に用いるテクニックである。各分類群の専門家でなくても迅速な同定が可能のため、害虫・病原体媒介者の同定、生態モニタリングの簡便化や遺伝的多様性の指標など、様々な分野にとって強力なツールとなる。この手法の実用化をめざし、今年に基盤構築プロジェクトである国際バーコードオブライフプロジェクト（iBOL）が立ち上がる。カナダが主導するこのプロジェクトには世界26カ国が参加し、国レベルでのプロジェクトが立ち上がっているが、日本は参加すらできていないのが現状である。本セミナーでは、DNAバーコーディングの目的とその概要、海外での現状、研究への応用、および日本でのこれまでの取り組みについて紹介し、今後の研究への応用、日本国内での活動、国際プロジェクトへの貢献に関する議論の助けとしたい。

世話人：森山昭彦（内線5851：moriyama@nsc.nagoya-cu.ac.jp）